

きずな

 2012年
(平成24年)

7



7月 社会を明るくする運動強調月間

犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪のない地域社会を築こうとする運動。法務省は犯罪者予防更生法の施行日(1949年7月1日)にちなみ、7月を強調月間とし、新聞やテレビ等による広報、街頭キャンペーンなどを実施しています。

特集テーマ いのち

かけがえのない存在として…

- ② 子どもたちに命の大切さを伝える紙芝居
「阪神・淡路大震災～まーくんが伝えたいこと～」
北淡震災記念公園(淡路市)
- ③ 弟の命を心に刻んで
森祐理 さん(歌手)
- ④ いのちをささえる
神戸学院大学総合リハビリテーション学部准教授
阪田憲二郎さん
- ⑤ 受話器の向こうの心の声を聞き
自殺防止に取り組む
NPO法人国際ビフレンダーズ・
大阪自殺防止センター(大阪市)
- ⑥ 看取りの写真を通して伝えたい命のバトン
國森康弘さん(フォト・ジャーナリスト)
- ⑦ 助産師たちが伝える性と命の尊さ
いのち語り隊(神戸市北区)
- ⑧ 情報ぷらざ



東日本大震災などの大災害や多発する悲惨な事故・事件、そして自殺など、私たちの周りには「いのち」に関わるさまざまな問題があります。今一度、誰もが「かけがえのない存在」であることを認識し、家庭や地域、職場、学校などで「いのち」の尊さを感じ、みんなで支え合う社会づくりについて考えましょう。

子どもたちに命の大切さを伝える紙芝居 「阪神・淡路大震災～まーくんが伝えたいこと～」

北淡震災記念公園(淡路市)

野島断層保存館がある淡路市の「北淡震災記念公園」ではオリジナルの紙芝居「阪神・淡路大震災～まーくんが伝えたいこと～」を上演しています。5年前、断層保存館の副館長、米山正幸さんが幼稚園で震災体験を話した際、「もっと分かりやすく、子どもたちの感性に届けたい」と、紙芝居の制作を決意。米山さんが構想を練り、同館の職員が絵を描いて1年がかりで完成しました。

物語は、震災当時、消防団員として救出活動に当たった米山さんの体験談がベースになっており、地震でたんすの下敷きになって亡くなった「まーくん」が天国から家族を見守るかたちで進行します。「あの時は地域の人みんなが協力して生き埋めになった多くの人を助けました。でも、救えなかった子どもたちもいて、それが忘れられませんか」と米山さん。亡くなった男児を主人公にしたのは、「子どもたちが自分の命は周りの人たちによって支えられているということをリアルに感じてほしい」からです。



公園職員による感情のこもった語りが
子どもたちを物語の世界に引き込みます



米山さんは紙芝居を携えて県外の幼稚園や学校などにも積極的に出向いています。東北地方にも東日本大震災の以前から足を運んでおり、現在も交流が続いています。「これからも東北の被災地の子どもたちにも「まーくん」で命の尊さや地震の怖さを伝えたいです」と語ります。

「阪神・淡路大震災～まーくんが伝えたいこと～」
についての問い合わせ

野島断層保存北淡震災記念公園

TEL 0799 (82) 3020 FAX 0799 (82) 3027

北淡震災記念公園

検索

弟の命を心に刻んで

森 祐理さん（歌手）

「ユリさん、日本が大変なことに！」台湾でのコンサートツアー2日目の3月11日、しばしホテルで休みを取っていた時に、スタッフが大声で部屋をノックされたのです。すぐテレビを点けると、信じられないような映像が目飛び込んできました。「これが日本……」言葉を失い、その場に座り込んだことが忘れられません。それから連日報道される被災地の状況に胸が痛み、海外で祈るしかできない自分を歯痒く感じました。同時に、その映像を見ると、どうしても阪神・淡路大震災を思い出さずにはいられません。私の弟は、当時神戸大学の学生で東灘区に下宿しており、家の下敷きになって亡くなったのです。瓦礫の中、炊き出しの列や仮設住宅で歌い続けたことが走馬灯のように浮かんできて、居ても立っても居られない気持ちでした。

座っておられる方々で埋め尽くされています。物資を配った後、スタッフが私に言ったのです。「1人で歌ってください」。その言葉に驚いて周りを見ると、ほとんどの方は寝ておられます。無理だ、怒られたらどうしよう、そう思いながらも何かが私を動かしました。前に立ち、震えながら言いました。

「皆さん、私も阪神・淡路大震災で弟を失いました。歌を聴いてください」

そう言った途端、何人もの方がパッと顔を上げられたのです。その表情は、同じ痛みを分かち合った仲間を見るような目に変わったのです。弟の命が繋がった！そう感じた途端、堰を切ったように歌があふれました。皆さん泣きながら聴いてくださいました。「3週間お風呂に入っていないけど、歌で身体洗ってもらったわ」「地震でも津波でも泣かなかったけど、今日初めて泣いた」。共に泣き、手をつないで歌う中で、

弟の命がここにはっきりと生かされていることを感じました。

あれから、無我夢中で被災地で歌い続け、気が付くと60力所にもなりました。あるおばあさんは「家も家族も失い、86歳で独りぼっちだ。何の為に生きているのか」と泣かれました。その答えを思い巡らす中で、たとえ高齢でも幼くても独りぼっちでも、命があるのなら、その人にしかできない何かがあると深く思わされたのです。世界中に同じ人間は誰もなく、一人ひとりがかけがえない存在なのだと思います。弟の命が多くの人に繋がっていることを心に刻み、その重みを感じながら、これからも命の尊さを歌い続けていきたいと願っています。

プロフィール

京都市立芸術大学声楽科卒業。NHK「ゆかいなコンサート」で歌のお姉さんを務める。現在は福音歌手として国内外を駆け回り、美しい歌声で希望のメッセージを届けている。
法務大臣顕彰受賞。日本国際飢餓対策機構親善大使、茨木ロータリークラブ名誉会員。CD、著書、DVD等好評発売中。
公式ホームページ <http://www.moriyuri.com/>





いのちをささえる

神戸学院大学
総合リハビリテーション学部 准教授
阪田 憲二郎さん



寄り添うことの大切さ

1998（平成10）年から昨年まで、年間の自殺者数が14年連続して3万人を超えています。先進国では突出して多い人数となっています。自殺の原因は生活問題、健康問題、経済問題などさまざまですが、最後は死を選ぶしかないほど追い詰められた状態にいる方が多いのです。しかも自分が抱えているつらい気持ちやしんどさを家族や親しい人にも打ち明けることができない人がたくさんいることも分かってきました。

私たちは自分がしんどい時、人に話を聞いてもらつと何かすっきりした気分になることを経験します。このように人の話を聞くことが、実はいのちをささえることに大きく関係しています。

私は「神戸いのちの電話」の研修委員として電話相談員の「聞き方の向上」のためにさまざまな研修活動を行っています。現在のいのちの電話は全国に49局あり、兵庫県内では神戸とはりま（姫路）の

2局が活動を行っています。いのちの電話の目的は、24時間365日、いつでも、どこでも、困難の最中にある人からの電話を傾聴することによって危機的状況を回避するための手助けをします。実際にかかってくる電話の約1割は「自殺したい」「生きていても意味がない」などと考えている方たちです。この方たちが誰にも言いえない悩みを語られた時に、相談員はそれを受け止めて、つらい気持ちに寄り添って傾聴します。その結果、気持ちが楽になり、その人自身が抱える問題と向き合い、自らの力で問題解決の方向性を見出せることがあります。

「一人ひとりができること」から

いのちの電話では、原則として「こうした方がいいですよ」といったアドバイスや助言することで相手をささえることはしません。それよりも、相手の気持ちに寄り添い、共感し、相手のつらさを理解

しようとする姿勢を持つことを最も大切にしています。そして、この聞き方が電話の向こう側にいる人々の、「いのちをささえる」といつながっていることを願いながら活動をしています。

人が人をささえるためには、個人にできることには限界があります。しかし、「相手の気持ちに寄り添うこと」はそれほど難しいことではなく誰にでもできます。いのちをささえることは特別なものではなく、「私たち一人ひとりにできることなんだ」という発想の転換が求められると思います。あなたも身近な人に対して気持ちに寄り添って聴くことを始めてみてはいかがでしょうか。

.....

プロフィール

1955（昭和30）年大阪府生まれ。長年、精神科診療所で精神保健福祉士、臨床心理士として精神障害者の援助活動に取り組む。2005（平成17）年、神戸学院大学総合リハビリテーション学部准教授に就き、精神保健福祉士の養成に携わっている。2003（平成15）年からは社団法人神戸いのちの電話の研修副委員長も務める。「心の病の理解と受容」など著書多数。

受話器の向こうの心の声を聞き 自殺防止に取り組む

NPO 法人国際ビフレンダーズ・大阪自殺防止センター（大阪市）

毎月の相談件数は600件

自死遺族のつどいの場も

「自分はおうだめかもしれない。でも誰か自分の声を、心の叫びを聞いてほしい」。少しでもそんな声に寄り添いたいと活動を展開しているのが、1978（昭和53）年に開設された「NPO 法人国際ビフレンダーズ・大阪自殺防止センター」です。ビフレンダーズとは「ビフレンディング（＝友となる、味方になる）をする人」という意味で、さまざまな苦しみや悩みに耳を傾け、自殺防止に取り組んでいます。

スタッフはボランティア。電話相談や面接相談には月平均で約600件の相談が寄せられ、30人ほどで対応しています。

「社会から孤立する人が増えているといわれていますが、つらい気持ちを聞いてもらったことで少し落ち着き、最後にありがとうと言われることもあります」と話すのは同センター所長の深尾泰さん。スタッフはただ話を聞くだけでなく、受話器の向こうの相手の気持ちを正しく理解し、対処していかねばなりません。相談員はセンター独自の養成講座で十分に訓練を積んだ人たちがかりです。



「ゲートキーパーの講師も含め、これからの時代、スタッフの役割はますます大きくなります。一人でも多くの人にスタッフになっていただければ」と語る深尾さん

NPO 法人国際ビフレンダーズ・大阪自殺防止センター

大阪府大阪市中央区南船場 1-11-9

長堀安田ビル 9 階

TEL 06 (6260) 2155

（平日10:00～17:00）

FAX 06 (6260) 2157

TEL 06 (6260) 4343
（金曜13:00～日曜22:00）

電話相談

大阪自殺防止センター

検索

相談事業と並ぶ活動の柱が、自死遺族が安心して話せる場「土曜日のつどい」と「水曜日のつどい」の開催です。大切な人を自死で亡くした遺族には、「どうして気持ちを察してやれなかったのか」と自責の念にかられて家にこもりがちになり、孤立してしまう人もいます。互いに気持ちを話すことで、胸のつかえがずいぶん軽くなるといいます。つどいで親しくなった遺族同士が自主的に寄り合うこともあるそうです。

また最近では、スタッフが自治体などのゲートキーパー養成講座で講師を務める機会が増えています。ゲートキーパーとは悩んでいる人に声を掛け、話を聞き、支援につなげ、見守る人のことで、スタッフは傾聴し寄り添う姿勢を伝えています。

いのちの電話・自殺防止電話相談のご案内

あなたは決して一人ではありません。悩みがあれば気軽にご相談ください。

兵庫県いのちと心のサポートダイヤル	短縮ダイヤル #7500 〈ダイヤル電話、携帯電話、IP電話、PHS、 県外の方は TEL 078 (382) 3566〉	月曜～金曜 18:00～翌日8:30 土曜、日曜、祝休日 24時間
神戸いのちの電話	TEL 078 (371) 4343	月曜～金曜 8:30～21:30 土曜8:30～日曜16:30 祝休日 9:30～16:30 第4金曜8:30～日曜16:30
はりまいのちの電話	TEL 079 (222) 4343	14:00～翌日1:00
自殺予防いのちの電話	☎0120 (738) 556	毎月10日 8:00～翌日8:00



看取りの写真を通して伝えたい命のボタン

くにもり やすひろ
 國森 康弘さん (フォト・ジャーナリスト)

滋賀県在住のフォト・ジャーナリスト、國森康弘さんは今年1月、家族の看取りの様子の写真に短い文章を添えた写真絵本「いのちつづ『みとりびと』」を発行。「身近に死を感じる機会が減った子どもたちにも手に取ってもらいたい」と語ります。

天寿を全うする幸せ

世界各地を取材で回っていた國森さんは、紛争地で一日一日を必死で生き抜く子どもたちが命を落とす現場を目の当たりにしてきました。天寿を全うする幸せを伝えたいという思いから、滋賀県東近江市で地域医療や在宅ケアに取り組んでいる永源寺診療所の医師、花戸貴司さんに同行し、家族の看取りの様子を撮影するようになりました。



國森さんは撮影先を訪ねる時、「この人に会うのは最後かもしれない」と、それまでに撮った中からとっておきの一枚を渡しています。写真を手にした人たちの反応は前向きで、「私、こんな顔をしてるんやー!」と喜んで部屋に飾る人も。國森さん自身、うれしい驚きとともに、それまでの

先入観が引つ繰り返ったといいます。「人が『老・病・死』に対して抱く先入観には悲壮感、疲弊感が伴いがちです。しかし、これまで多くの家を回って気付いたのは、人の『死』も自分たちの日常生活のひとつなのだ、自然体で受け入れられているということです」と語ります。

命のボタンが渡る瞬間

「いのちつづ『みとりびと』」は今年1月の第1巻を皮切りに、第4巻まで発行されています。第1巻は「おおばあちゃん」の死に触れた小学5年生の「恋ちゃん」ら家族や花戸さんの姿が『時系列』で掲載されています。第2巻の臨終の場面は、ナミバあちゃんが安らかな表情を浮かべ涙が頬を伝っているというもの。國森さんはナミバあちゃんが息を引き取る瞬間、ファインダー越しに家族からの「ありがと」と、ナミバあちゃんからも「ありがと」と、感謝の気持ちの響き合いを見たといいます。

「みとりびとには私の思いだけでなく、看取った人、看取られた人、死に関わった全ての人の



「いのちつづ『みとりびと』」シリーズ

- 第1巻 恋ちゃんはじめての看取りーおおばあちゃんの死と向きあう
- 第2巻 月になったナミバあちゃんー「旅立ち」はふるさとでわが家で
- 第3巻 白衣をぬいだドクター花戸ー暮らしの場でみんなと輪になって
- 第4巻 いのちのボタンを受けとってー看取りは残される人のためにも

発行元:農山漁村文化協会 TEL 03(3585)1141

思いがこもっている気がします。残された家族に命のボタンが受け渡される意味を感じてほしいです」

「看取り」を通して、家族の愛情や生命力、死生観などが次の世代に受け継がれていく。まさに命のリレーといえるのではないのでしょうか。

プロフィール

1974(昭和49)年生まれ。京都大学大学院修了後、神戸新聞社記者を経て、フォト・ジャーナリストに。イラクやソマリアなど海外の紛争地や貧困地域のレポートをはじめ、近年は国内の地域医療や在宅ケア、看取りの取材にも力を入れている。2011(平成23)年度の上野彦馬賞最高賞など受賞多数。



昨秋、永原さんは「いのちの授業」の内容を2冊の本にまとめました。「お母さんのための性といのちの子育読本」は子どもに性の大切さをどう伝えるかを説明。一方、「命のことが分かる本」は10代の若者向けに性と命の大切さを伝えます。詳しくは、いのちのことば社TEL03(5341)6920へ。



助産師たちが伝える性と命の尊さ

いのち語り隊 (神戸市北区)

児童・生徒に「いのちの授業」を開催

「若者たちに性の大切さをどのように伝えていくか」をテーマに活動を展開しているのが、神戸市北区のマナ助産院で働く助産師が中心になって結成した「いのち語り隊」。

小・中学校や高校、少年院などを訪ねて「いのちの授業」を開いています。

発足は2001（平成13）年。その数年前から神戸連続児童殺傷事件など、全国的に少年犯罪が多発したことがきっかけでした。代表の永原郁子さんは赤ちゃんの誕生に立ち会った仕事柄、「性と命の尊さ、かけがえのなさ、誰も

が幸せになるために生まれてきたことを伝えたい」と思い、助産師仲間と呼び掛けました。

メンバー8人で手分けして年間約100カ所でのこの年の授業をしています。教育現場からは「命について話してほしい」「性に関して聞かせてほしい」などの要望があるそうです。「子どもたちが抱えている性と命の問題は、同時に話すことによってより効果的な学習ができると私たちは考えます。自他の命の大切さを感じることで、自他の性も大切にすることができると思います」

いのちの授業では、プロジェクターやスライドのほか、時には新生児の人形を使うなど、児童・生徒たちが理解しやすいよう工夫を凝らしています。助産師の体験談を基に、単に性の知識を伝えるのではなく、新たな生命誕生の神秘や尊さ、一つの命をめぐる家族の喜び、人に対する思いやりなど内容は多岐に及びます。真剣な表情で話を聞く児童・生徒たちの様子に、「いのちの授業の果たす役割の大きさを実感します」と話します。

データDVに関する
内容も増加

近年は、若者の間でデートDVが問題となってきたおり、高校を中心に、いのちの授業でも取り上げる機会が増えました。「どのような状態がDVなのか」を知って自らの行動を省みることで、将来のパートナー選びや幸せな家庭を築くことに役立てます。

「新しい命が誕生する瞬間の話から始まり、誰もが『私は愛されている』という自己肯定感や、『自分が生まれてきたのには意味がある』という自尊心を持つことが人生を豊かに生きる基盤となり、他者への思いやりの気持ちも芽生えると思うのです」と永原さん。

今日もいのち語り隊のメンバーたちは、児童・生徒たち
に優しく語り掛けます。「一
人ひとりの命はかけがえのな
いものである」と。

「いのちの授業」に関する問い合わせ

マナ助産院 (院長：永原郁子)
神戸市北区ひよどり台 2-30-6
TEL・FAX 078 (742) 3474
✉ ikuko@mana-mh.com

近年は、若者の間でデート



試写室

いwasakiちひろ～27歳の旅立ち～(2012年)

水彩画ならではの柔らかなタッチと温かみのある絵柄が特徴の絵本画家、いわさきちひろの生き様に迫ったドキュメンタリーです。

大正7（1918）年、福井県に生まれたちひろは幼い頃から絵の才能を見せるも、20歳の時に親が決めた相手と結婚。しかし、翌年に夫は自死します。念願の画家を目指して単身上京したのが昭和21（1946）年、27歳の時でした。

55歳で生涯を閉じるまでの足跡を自画像や作品、友人、知人らの証言でたどります。

作中に登場する作品の中でも自画像が印象的です。絵本とは異なる力強いタッチで、厳しい状況にあっても未来を見ています。また、ズームアップを多用した映像から、ちひろの意志の強さが感じ取れます。7月14日(土)からシネ・リーブル神戸で公開されます。

エグゼクティブプロデューサー:山田洋次 監督:海南友子

声の出演: 檀れい、田中哲司 出演: 黒柳徹子、高畑勲、中原ひとみ、松本猛など 96分

問い合わせ▶シネ・リーブル神戸 TEL 078(334)2126

ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2012 in にしのみや

◎日時 8月11日(土) 10:00～15:30
◎場所 西宮市民会館・アミティホール

※阪神「西宮」駅(市役所口)からすぐ、JR「西宮」駅から徒歩約10分

兵庫県では8月を「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間とし、市町と一体となって啓発活動に取り組んでいます。その主要行事「ひょうご・ヒューマンフェスティバル2012 in にしのみや」を8月11日に西宮市で開催します。講演会、人権啓発パネル等展示、コンサート、ヒューマンシネマ、キャラクターショー、体験コーナー、販売コーナーなど、楽しい催しがたくさんあります。ご家族・ご友人をお誘い合わせの上、ぜひお越し下さい。

■人権講演会／水谷修さん(夜回り先生)

■ころあつたかステージ／川嶋あいさん(歌手)のトーク＆ライブ、大学生による音楽ライブ

■ヒューマンシネマ／高良健吾主演「おににちゃんのハナビ」ほか

■「それいけ！アンパンマン ショー」

「のじぎく文芸賞」作品募集中 ～あなたの思いを作品に描いてみませんか～



◎募集部門／小説、随想、詩、創作童話

◎応募条件／兵庫県内に在住、在勤、在学の人

◎応募作品／インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品

※詳細については協会ホームページをご覧になるか、電話でお尋ねください

◎応募方法／郵送で受け付け 9月20日(木)締め切り(消印有効) 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内 (公財)兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係

イベントガイド

猪名川町平成24年度 人権教育セミナー	●日時／7月4日(水) 19:00～20:30 ※無料、申し込み不要 ●場所／猪名川町中央公民館 ※能勢電鉄「日生中央」駅から阪急バス「総合公園前」下車すぐ ●テーマ・講師／「高齢者の人権」本田英子さん(元兵庫県人権啓発協会研修講師) ●問い合わせ／猪名川町人権推進室(木津総合会館) TEL072(768)0217
明石市人権大学講座	●日時／①7月5日(木)②12日(木)③19日(木) 14:00～16:00 ※無料、要申し込み ●場所／明石市生涯学習センター ※JR・山陽「明石」駅から徒歩約3分 ●テーマ・講師／①「あーよかったな あなたがいて～心の銀行にいっぱいのお金を～」仲島正教さん(教育サポーター)②「震災から学ぶ～支え合うまちづくり・つながりづくりに向けて～」室崎益輝さん(関西学院大学総合政策学部教授)③「発達障がい理解と支援」井澤信三さん(兵庫教育大学大学院准教授) ●問い合わせ／明石市人権推進課 TEL078(918)5058
稲美町 男女共同参画フォーラム	●日時／7月7日(土) 13:30～15:30 ※無料、申し込み不要 ●場所／稲美町立コミュニティセンター(稲美町役場新館4階) ※JR「土山駅」から神姫バス「稲美町役場前」または「六甲バスター北」下車すぐ ●テーマ・講師／「人権・地域・社会づくりをキーワードとした男女共同参画社会構築への推進」田端和彦さん(兵庫大学教授) ●問い合わせ／稲美町教育委員会人権教育課 TEL079(492)2340

ハーフ タイム

今月号に寄稿いただいた歌手の森祐理さんは、これまでに何度も東北地方を訪ねて、その歌声で被災者の皆さんに癒やしと元気を届けています。フォト・ジャーナリストの國森康弘さんは写真を見た人の心に安らぎを与えています。今月号に登場していただいた全ての方に共通しているのは「生」に対して感謝の気持ちと畏敬の念を持っていることではないでしょうか。「自分ができることでも一人でも多くの人を支えたい」という思いが、一人でも多くの人に届くよう、「きずな」が役立つことを願います。(田中)